

# 識字・日本語教室推進会議／識字セミナー

研 座 演 沙 資 映 他 体 ワ

滋賀県教育委員会  
滋賀県教育委員会事務局生涯学習課  
TEL 077-528-4654

実施年月日 実績等	平成16年9月9日(木) 午前：日本語教室推進会議 午後：識字問題セミナー 参加人数：42人
主催(共催)	滋賀県教育委員会
開催場所	栗東芸術文化会館 さくら
対 象	一般県民、識字・日本語教室関係者など
人権課題	人権全般、とくに同和問題、障害者、外国人

## 事業の目的

識字問題に対する理解や認識を深め、非識字者の解消を目指すために、平成2年にスタートした。以来、会議や講演会、パネルディスカッション、ビデオ視聴、体験発表といった多彩な手法を取り入れ、人権問題への啓発活動のあり方と、その具体的な取り組みの方法を探っている。

## 事業概要

本事業は、毎年、国際識字の日(9月8日)の前後に開催される。平成16年度は9月9日に行われた。同年は、午前中は「日本語教室推進会議」、午後は「識字セミナー」というプログラムで構成している。

### プログラム構成・内容

- ①受付
- ②識字・日本語教室推進会議(午前)  
非識字者を解消するために、識字学級や日本語教室の指導者、県内の関係職員、および関係機関の担当者などが集い、識字学級や日本語教室の企画・運営の充実を図るための手法

等が話し合われた。おもに識字学級や日本語教室の現状や、運営上の課題についての意見が交換された。

### ③識字セミナー(午後)

「がんばるしきじ ～和泉の識字～」というビデオを視聴した後、各地で人権に関わる講演を行う落語家の桂文福さんによる講演会形式のセミナーを開催した。

講師：桂文福さん(落語家)

プロフィール：「落語で村おこし」を合言葉に、全国の市町村で「ふるさと寄席」の座長を務める。「真の笑いは平等な心から」をテーマに人権問題の解消を目指した講演も精力的に展開。「がんばるしきじ ～和泉の識字～」



セミナー会場受付のようす



落語家桂文福さんの講演

のナレーションも担当する。

講演の内容：「識字学級や日本語教室でがんばっている人たちの心温まる話を中心に、「識字」と「人権」についての理解を深める内容。「識字学級・日本語教室は単なる字の勉強ではない大切な出会いの場だった。識字学級が広がれば、みんなの心も広がる」との話は多くの参加者の共感を呼んだ。最後は、「識字・人権河内音頭」で締めくくった。

### ④まとめ

### 連携状況

- NPO法人のびわこ日本語ネットワークとの連携を深め、外国人に対する日本語教室のあり方について情報を交換した。
- びわこ日本語ネットワークを通じ、日本語教室の関係者や、社会教育関係団体などに対して参加を呼びかけた。さらに、事前に記者発表を行い、新聞などを通して県民に開催を周知した。

### 特色・工夫した点

- 気軽に学ぶことを目的とした桂文福さんの講演はユーモアあふれる語り口で含蓄にも富み、研修会は、笑いあり、涙ありのほのぼのとした雰囲気が進められ好評であった。

## 実施結果

### 参加者の反応・事業の反響等

- あくまでも参加者を見渡した実感だが、その3分の1は毎年欠かさず参加する方、3分の2が初めて参加する方という構成だった。初めて参加する方からは「識字という言葉すらよく知らなかった。生きていくうえで文字を獲得すること、そ

して思いを表現するうえで文字を使うことの大切さが改めて実感できた」といった感想が寄せられた。

### 反省点・今後の課題

- 高齢化などを理由に識字教室に通う方は減少傾向にあり、識字教室の数も減っている。そうした現状をふまえ、今後の教育・啓発活動のあり方も時代の変化に対応して考えていく必要があると認識している。
- 識字問題では、文字の読み書きも大切な要素であるが、今日では、パソコンの操作やインターネットの活用といった新たな課題も加わっている。今後、そうした現代的なテーマも含めた研究を進める必要性を感じている。
- 滋賀県では外国人の占める割合が増加傾向にあり、外国人を対象にした日本語教室に関わる課題もあり、関係機関との連携を深めていきたい。そのセミナーのあり方や、教育内容について、さらなる検討の必要があると考えている。
- 同事業が開始された平成2年には300人ほどの参加があったが、近年は40人前後にまで減少している。これまでの識字問題についての教育・啓発活動をふまえ、現代的な課題に即した対応を今後、検討していきたい。



セミナー会場内の参加者